doujin circle
とらや

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

002
+015

素晴らしいアプリから始まる新生活!

SUBARASHII APP KARA HAJIMARU SIN SEIKATSU

122P	デジタルコミック・サイズ1600×1200／jpegアニメ

『今日は 思う存分 楽しむぞ』

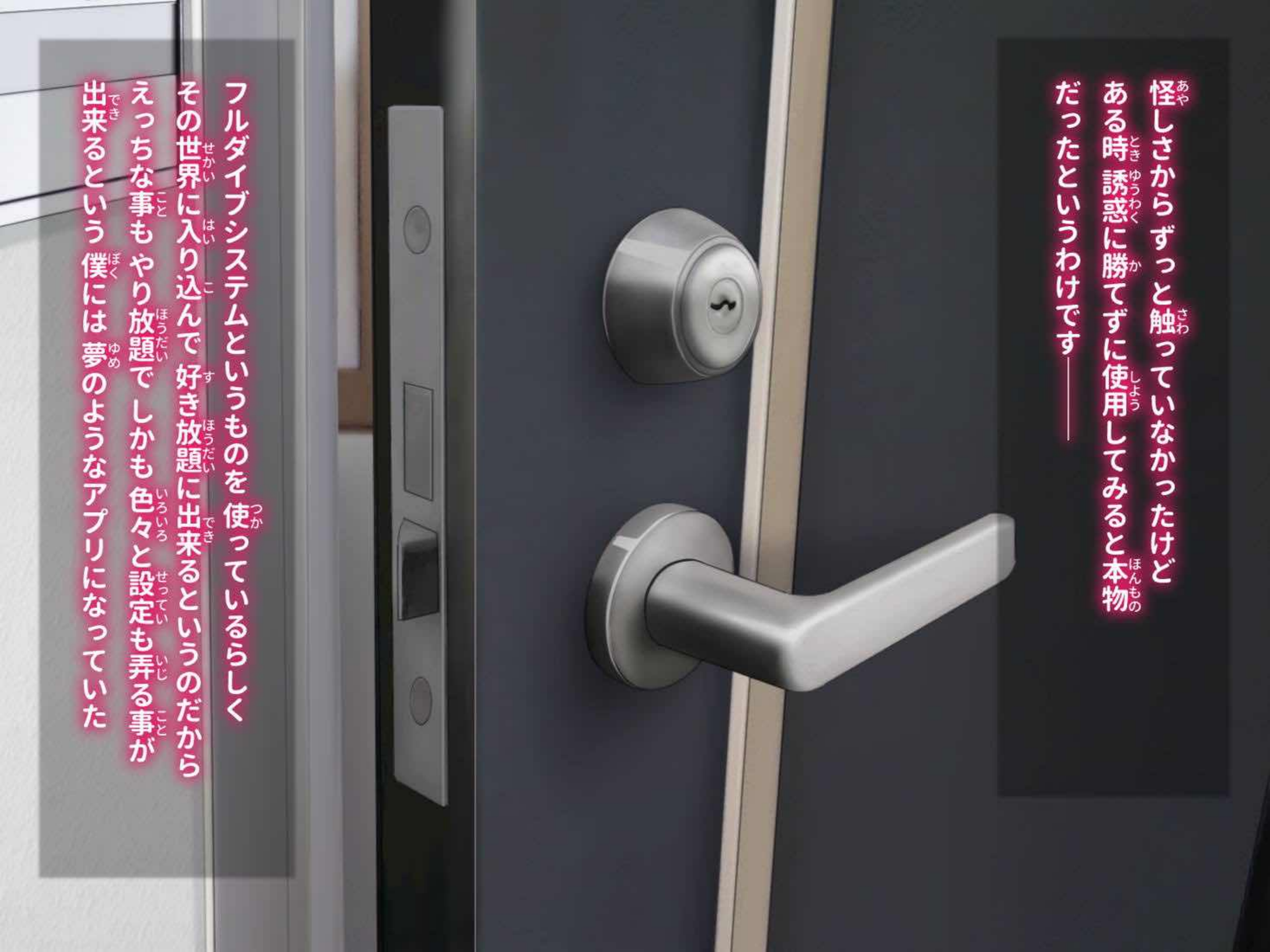
休日のある日――

僕は 最近ハマっているアプリを 堪能する為の

買い出しを終えて 帰宅していた

そのアプリというのが『異世界アプリ』というもので
簡潔にいうとアニメなどの登場人物に乗り移れて
遊べるという内容のものだった

しかしこのアプリは市販されているものではなく
いつ何処でインストールされたのかも わからない…
いくら調べても 何も出てこない 代物だった……



怪しさからずっと触っていなかったけど
ある時誘惑に勝てずに使用してみると本物
だったというわけです――

フルダイブシステムというものを使っているらしく
その世界に入り込んで好き放題に出来るというのだから
えっちな事もやり放題でしかも色々と設定も弄る事が
出来るという僕には夢のようなアプリになっていた

『リンクスタート…』

最近ハマっている『ダリ○ラ』というアニメにダイブする事を決めていた僕は部屋に着くと準備していた設定でアプリを起動した――

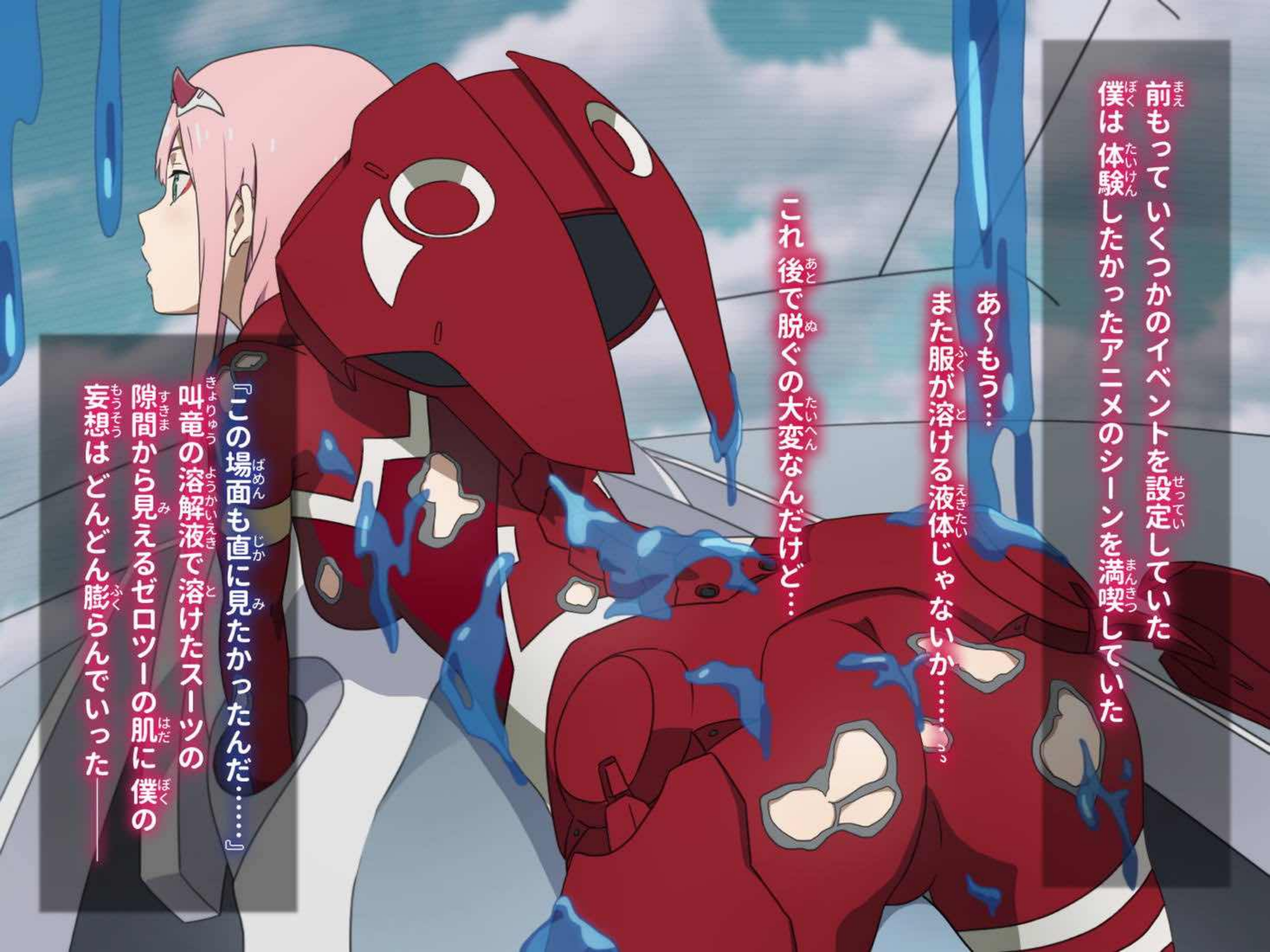
やぁダーリン…早く中に入りなよ♥
ダイブが成功すると
主人公のヒロに乗り移った僕の前には
ヒロインであるゼロツーがお出迎えしてくれた――

戦闘の前にまたキスしようよ…♥
アニメに入り込むとそこは指定していた
キスのシーンでゼロツーの顔が僕に近づいてきた……

ゼロツーの口が 僕の口に重なり キスが始まると
僕はこの時を待ってましたと 口の中に舌を入れ絡ませた……
ダーリン……♥
んん…

んっ何……
ダーリン…んんっ…このキス…凄いね……♡
『僕なら舌を入れるのに……』
アニメを見て妄想していたディープキス…
僕はゼロツーと舌を絡ませ続けると
ゼロツーも舌を返しお互い夢中でキスを続けた……

んっ…♥
舌を絡ませると…なんか溶けそうだね……
もっと続けたいけど今は戦わないとね
アニメとは違い長い時間キスを堪能していたけど
ゼロツーは目の前に迫る叫竜との戦いの為に
配置に戻ってしまった……
『もっとキスしていたかったのに…』


前もっていくつかのイベントを設定していた
僕は体験したかったアニメのシーンを満喫していた
あ～もう…
また服が溶ける液体じゃないか……っ。
これ後で脱ぐの大変なんだけど…
『この場面も直に見たかったんだ……』
叫竜の溶解液で溶けたスーツの
隙間から見えるゼロツーの肌に僕の
妄想はどんどん膨らんでいった――

なら戦闘が終わってから僕が着替えを手伝ってあげるよ
ばかっダーリン…何言ってるの♥もしかして……また私の裸が見たいとか？
えっちだな…ダーリンは♥それより早く叫竜を片付けようよ
この後戦闘に勝利するとゼロツーが溶けたスーツを着替える為に一人になる事を知っている僕はその時間がくるのを待ってロッカーへ侵入した――

ロッカー室に入るとそこには着替え始めたばかりの
ゼロツーがこちらに気付き少し驚いていた……

やだっ…何？
さっきの台詞……本気だったの？

私1人で着替えれるよ？

まだ冗談だと思っている様子のゼロツーに対して
僕は目の前のシュチュエーションに興奮していた
そしてこのアプリの最大の楽しみを実行することにした……

ゼロツー……
えっ…どうしたの？
ダーリン……何かあった…？
『このアプリの設定には服従や媚薬の効果もある
力の強いゼロツーも僕には逆らえない…
好きな展開で何をしても思い通りに出来る……』
僕は意を決してゼロツーに近づくと背後から抱きついた――

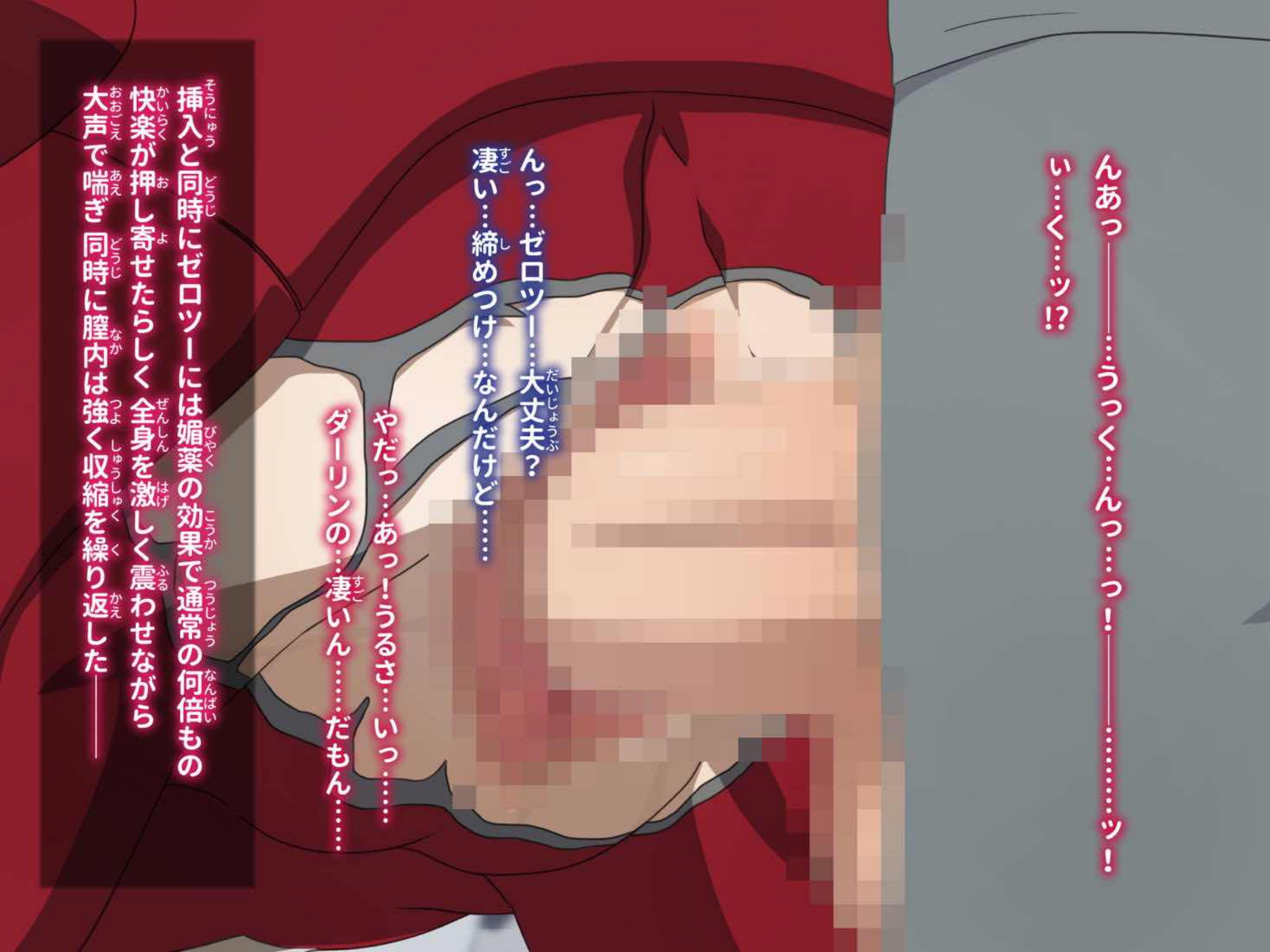
やっ馬鹿！
着替えられないじゃないか…
なに？
僕のおっぱいに…触りたいの…？
僕は ゼロツーの後ろに回りこむと 強く抱きしめた
そして その大きなおっぱいを両手で鷲掴みにした――

いやっなに…？
身体に力が…入らない……
それに揉まれてるだけなのに…
なんで…こんなに感じる…の
僕がおっぱいを揉みながら突起した乳首にも愛撫を何度も
何度も繰り返すとその度にゼロツーの身体は敏感に反応し
次第に吐息が漏れ始めていった……

んんっ…やっ…なんか…おかしい…
ダーリン…僕に何かしたの？
おっぱいで…濡れてきちゃったん…だけど……
アプリの効果でゼロツーは抗う事も出来ずいつもより感じる
身体を執拗に愛撫されると今までに経験した事のない刺激で
息は乱れ終には僕を求めるようになっていった……

ねぇ…ダーリン…何時まで揉むつもり…なの
ゼロツーは一人で
こういう事したりするの？
人になりたいから…たまに触ったりもするけど…
それより僕…もう……下が…疼いて…るんだけど…
乳首を弄る度にぴくんと身体が跳ね脚をくねらせながら
男性器を求め始めた頃僕はズボンからちんぽを取り出した……
『僕もそろそろ我慢出来ない…』

溶けたスーツの隙間からは
ゼロツーの秘部が丸見えになっていた……
丁度破れてるからこのまま挿れるよ…
うん…ダーリンなら…いいよ
僕を受け入れようと脚を広げお尻を突き出す
ゼロツーの秘部に狙いを定めると僕は肉棒を一気に挿入した


んあっ――……うっく…んっ…っ！――……ッ！
い…く…ッ!?
んっ…ゼロツー…大丈夫？
凄い…締めつけ…なんだけど……
やだっ…あっ！うるさ…いっ……
ダーリンの…凄いん……だもん……
挿入と同時にゼロツーには媚薬の効果で通常の何倍もの
快楽が押し寄せたらしく全身を激しく震わせながら
大声で喘ぎ同時に膣内は強く収縮を繰り返した――

やっだめッ！
ダーリン…今はまだ動かない…で
そんなの…無理だよ
ゼロツーの膣内 気持ち良くて……

〜〜ッんっ！あっ！またっ……
いやぁ…ばか…イッてるのに……
ね…ねぇ本当に…ダーリンなの…？
いつもの僕と違うよね…こんな僕は…嫌い？
ううん…積極的なダーリンもいいけど…

やだっ…ダーリンが動く度に
僕…イッちゃってるよ…
こんな事…今まで…ない…のに
今日のダーリンの…凄くいい…♥
ゼロツーは僕が腰を動かす度に
よがりだすと感触を楽しむように
自らも尻を動かし始めていった……

んんっそこ…そこいいよ…
あつい……身体があついよ…ダーリン…
ゼロツーの膣内は想像以上に
気持ちよくて 僕が夢中で
腰を振っていると
突然 ゼロツーの表情が変わった——

……あれ
…ダーリン……入り口……見て…
イチゴが覗い…てる
『…えっ』
ゼロツーの言葉でドアに目線をやると
確かに扉の外に人影を確認できた

…イチゴ……居るんだろ？
そこで…見てないで入って来いよ
服従の効果を使うため 僕がイチゴに
命令するとイチゴは部屋の中に
恥ずかしそうに入ってきた——

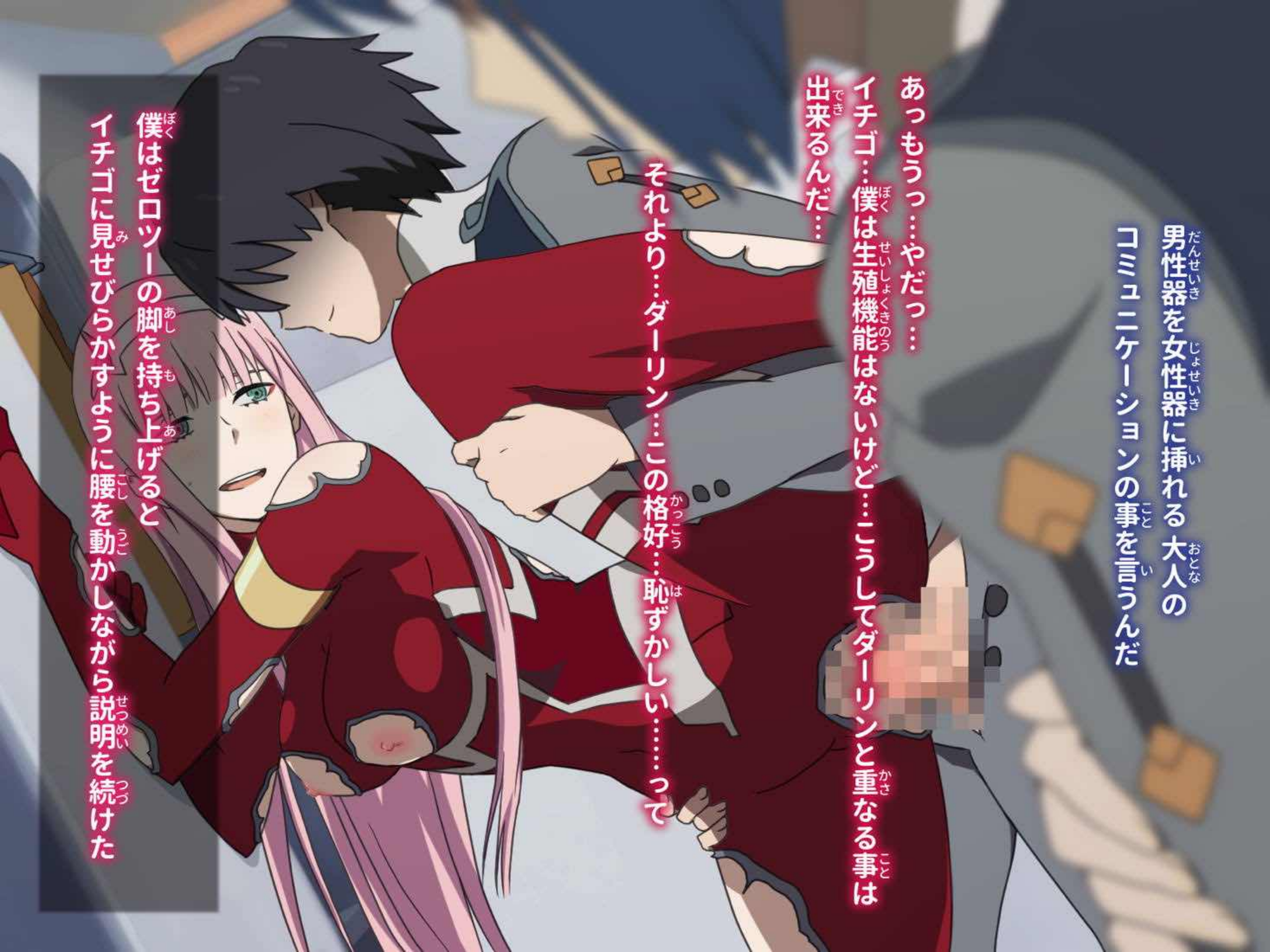
部屋に入ったイチゴは
セックスの事を知らない様子だったが
裸で絡み合う二人を見て赤面していた

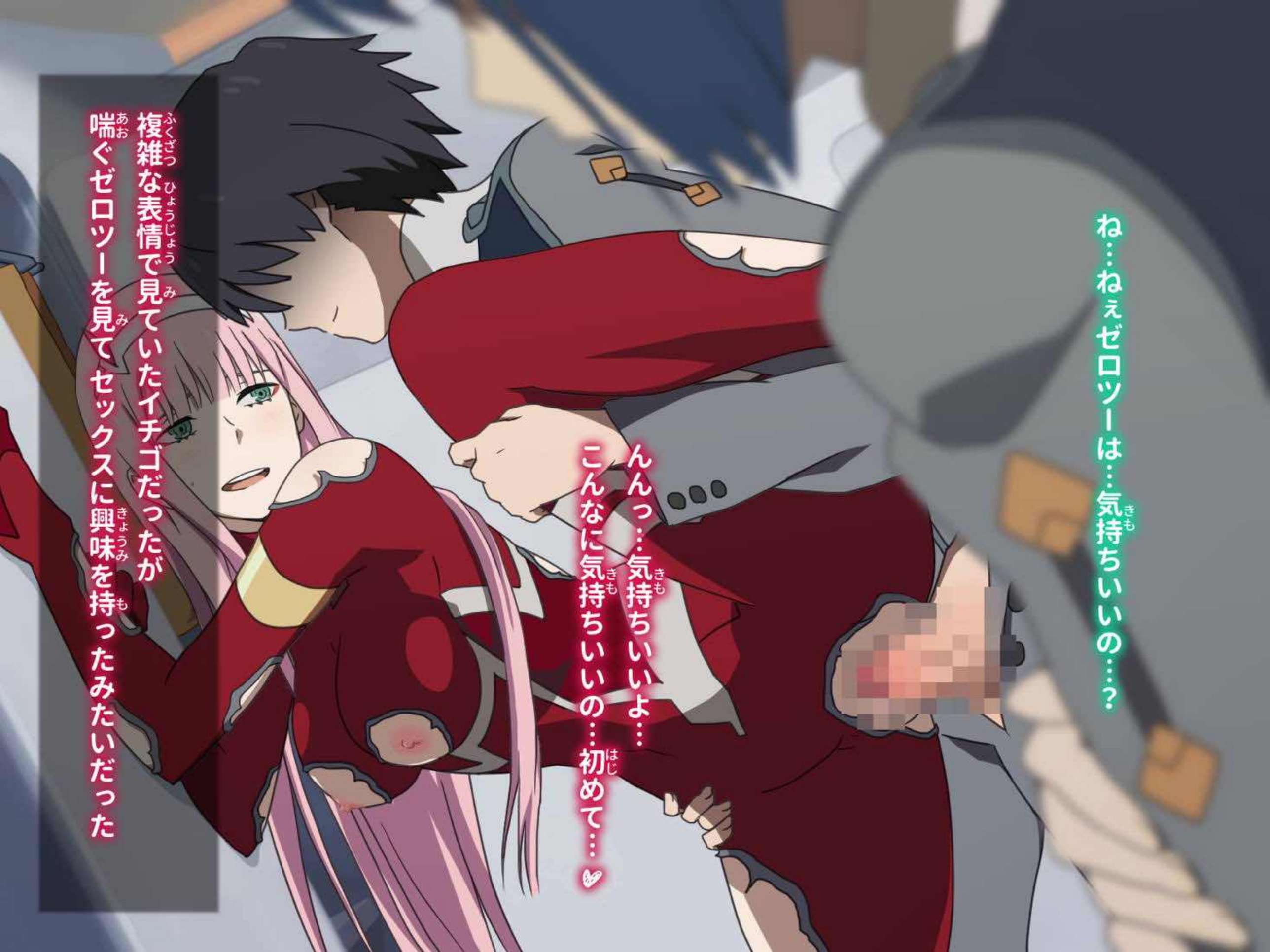
あ…貴方達…こんな所で何してるのよ…

何って…セックスだよ…

セ…セックス…？

ちょっとダーリン…
イチゴがきてるんだよ…待ってよ…


男性器を女性器に挿れる大人の
コミュニケーションの事を言うんだ
あっもうっ…やだっ…
イチゴ…僕は生殖機能はないけど…こうしてダーリンと重なる事は
出来るんだ…
それより…ダーリン…この格好…恥ずかしい……って
僕はゼロツーの脚を持ち上げると
イチゴに見せびらかすように腰を動かしながら説明を続けた


ね…ねぇゼロツーは…気持ちいいの…？
んんっ…気持ちいいよ…
こんなに気持ちいいの…初めて…♡
複雑な表情で見ていたイチゴだったが
喘ぐゼロツーを見てセックスに興味を持ったみたいだった

媚薬の効果もあって 何度も絶頂しているゼロツーに
僕はラストスパートをかけ さらに激しく腰を打ちつけると
ゼロツーの膣内は痙攣し 肉棒を締めあげきた
その圧で僕も我慢出来ずに射精した――
あっ あぅっ…んっ あぁっ…ダーリン…んんっ…
ぼ 僕…もう…限界だよ……
わかった…僕も もうすぐイきそうだから
イチゴはそこで見ててよ…
イく…？どこへ…？

いやあぁぁぁぁっ……あっ…んんっ……

ちょちょっと……ヒロ？
ゼロツー…意識ないみたいなんだけど
大丈夫なの？

ぁぁ…気持ち良くて 気を失っただけだから
すぐ眼を覚ますと思うよ

ゼロツーの事は僕に任せて
それより イチゴも興味あるなら
後で ゼロツーの部屋に来て…混ぜてあげるから…いい？
え……っ　う…うん…わかった…

『イチゴともやる予定だったけど3Pになるなんて…』
想定外の展開になったけどアプリによる万能感と
はじめての3Pに心は昂ぶっていった……
そしてゼロツーを部屋に運ぶと
意識が戻ったゼロツーと僕は自然とまた続きを楽しむように
体を寄せ合っていった――

ゼロツー…もうすぐイチゴも来るから待ってって……
僕待てないよ♥
先にはじめてようよ
意識が戻ったゼロツーはすぐに僕に抱きつくと
ズボンを降ろしまだ大きくなってない
僕のちんぽを触ってきた――

ダーリンこれ早く大きくして
さっきのまたやろうよ♥
わかったから…
それよりほらイチゴも来たから……

イチゴが部屋に入ると 先程とは違い
僕らの近くに寄ると 僕の顔を覗き込んできた――
ねぇヒロ…私は何をしたらいいの？
え？それじゃ…ゼロツーと一緒に僕のちんぽを
舐めて貰えるかな…
イチゴこっちで一緒にダーリンの大きくしようよ♥
……わかった
ヒロの舐めればいいんだね

こうやって舐めると
ダーリンのぴくぴくして面白いんだ♡
ゼロツーが僕のちんぽを舐めだすとそれを見た
イチゴも真似をするように舐めてきた――

どんどん大きくなっていくでしょ？
う…うん…凄く硬くなってきた……
イチゴのぎこちない舌が加わり二人に責められ始めると
勃たないように我慢していた僕のちんぽは
すぐに勃起してしまった……

ふふっ…ダーリンの…おっきくなってきた…
僕もう…我慢出来ない…先に挿れるからね…
そう言うとゼロツーは僕を倒すと上にまたがり
騎乗位の格好をとってくる――
『ヒロ…私はどうすればいいの？』
『イチゴは僕の顔の方にまたがってくれるかな？』
『……えっ…う…うん』

次は僕が上になって動くからね…♡

ん……あ……っ
ダーリン♡ ダーリンの…挿入(はい)っきた…あ…

あっ♥ あっ♥ん…んっ
ダーリンの奥に…あたってる♥
やだっヒロ…これ何してるの…
恥ずかしい…よ…
次イチゴにもしてあげるから
十分濡らしておかないとね…

んあっ♥あぁっ♥ダーリン…きもち…いい…♥
やっやだ…おしっこでちゃうよ……
ゼロツーは騎乗位で気持ち良い場所を探すように腰をくねらせ
快楽に溺れている中
僕がイチゴのクリトリスを刺激しながら秘部に指を挿れると
イチゴの身体は震え自然と出る喘ぎ声に戸惑っていた……

んんっ…はぁ…やっ…ダーリン ここ気持ちいい…♥
ここ擦ると……さっきのが…きちゃう……
ヒ…ヒロ……なに…これ…
あっあっ…やぁだめ…変な声でちゃう…んんっ……
二人の喘ぎ声が部屋に響き イチゴのおまんこも愛液で
十分に濡れた頃 ゼロツーは絶頂に達していた――
『ん…やっ……次はイチゴの番だね』

いやぁぁ!!やだ…こんな格好……恥ずかしくて死んじゃう……
大丈夫♥ダーリンの凄い気持ちいいんだから♥
それにイチゴも挿れてほしかったんでしょ？凄い濡れてるし…溢れて垂れてるよ♥

…ううぅぅ……
イチゴゆっくり挿れるから…いいね？
赤面しているイチゴがこくっと頷いた後
僕はちんぽをイチゴの愛液で十分に濡らしてから
ゆっくり押し拡げながら挿入していった――

んあぁっ…うんんっあっ…はぁっ…あっ…あっ…
イチゴ痛くないか？
少し…だけ…
それより熱くて硬くて…
指より…ヒロを…感じる…かも
媚薬の効果からか痛さよりも快楽の方が上らしく
腰をゆっくり動かされる度に自然と出る自分の喘ぎ声に
恥ずかしがりながら悶えていた……

やっ…はっだめぇ…んっ…んんっ
ヒロ…気持ちいい…よ…ヒ…ヒロ…
ふふっ イチゴ夢中になってる 可愛い
最初はきっかったイチゴの膣内も僕のちんぽの形に
変わってきた所で腰を激しく動かすと身体は仰け反り
全身が震えると 同時にイチゴの膣内は激しく収縮した――
『やぁぁ……ヒロ……だめぇ…いやっぁんぁぁ』

ん……うあぁぁっ……あ…あっ…
あは♥凄い…イチゴお漏らししちゃった♥
それにイチゴの身体ぴくぴくしてる♥
更衣室の僕と同じで気持ちよかったんだね…
…見てると僕もまたしたくなっちゃった…
ダーリン僕にもまた挿れてよ♥

んっんっ…んん
ダーリンのが奥に…膣内に挿入って…きてる…
ダーリン…大好き…♥
また…僕を絶頂せてよ♥
呆然とした表情で倒れているイチゴの横で
激しく求めてくるゼロツーと僕はまたセックスを開始した――

あっぅあ……んぅぅぅ……
やっだめ…ダーリン…
深…い…勝手に声でちゃう…
ちょっと…激しすぎ…だよ……
アプリの効果からなのか もう何度も射精しているからなのか
僕の性欲は尽きずAV男優のように腰を激しく振っていた——

んくうう……あっあぁぁぁあっ……
や…やだダーリン…
さっきからあそこがひくひくして身体がびくびく…する…
ゼロツー まだ続けても大丈夫か？
いいよダーリン♥ 何度も絶頂せて……
ダーリン凄い…またきちゃう♥

うあっ…うっんくぅ…んんっあああっあっ…
あ…うぁっ…ダ…ダーリンもう…だめ……
もう…僕…身体に力…入らないよ……
『僕…もう限界だよ…』
ゼロツーの膝の力が抜けて崩れ落ちるまで何度も腰を打ち付け
膣内出しをした後 それでも性欲のおさまらない僕は
横で倒れているイチゴを抱えた――

…えっ？やだっ…ヒロ…なに？
また…するの…？待って…
ちょっと…ちょっと待って…てば…
朦朧としているイチゴを抱えあげすでに勃起しているちんぽを
差し込むと先ほどとは違いすんなりイチゴの膣内を押し拡げ
一番奥に到達していた――

だっ…だめぇぇっっっッ……――
んはぁっぁ…やだやだ…
やだ…ヒロのがお腹にあたってる…
待って…今動いちゃだめっだよ…
これ以上掻き回されたら…
やっ…まっ…また おしっこでちゃうから…

やっだめっ今動いたら駄目だって…
言ってるのに……
ごめんイチゴの膣内気持ちよくて…
漏らしていいから…続けるよ
ばっばか…ヒロのばか…
漏らすとか言う…な…
んんんっ…やだ……また出ちゃう…よ…
ちんぽを挿れる度にイチゴのおまんこからぴゅっぴゅっと
軽く潮を吹き出し始めると僕はさらに激しく腰を振った——

はぁ…いやっっもうだめッ
また出ちゃう…でる…でる…でちゃうぅぅッ
絶頂に達したイチゴは盛大に潮を吹くと力果ててしまった――
しかし まだおさまらない僕はそのイチゴを抱えると
次は横になっているゼロツーへ運んだ――
『えっやだ…ヒロまだ何かするつもりなの？』

ダーリン…まだするの…？
待ってヒロ…私…もう無理だよ…
二人を重ねた後おまんこを合わせその間にちんぽを差し込むと
僕はまた腰を振り始めた——
力の入らない二人はされるがまま喘ぎ声が部屋に響いた……

二人のクリトリスを擦り刺激を
繰り返していると僕のちんぽは復活し
勃起した所で
次に二人の膣内に交互に挿入れ始めた
やだ…クリ…擦らないで……
僕もうイキたくないって…ばか…ダーリンのばか…っ
ヒロ…今そこ擦っちゃ駄目…だから…
そんなに擦ったら…また…

やだっダーリンのがまた…挿入って…
奥…突いたら…またびくびく…きちゃうから…
いやぁっ私にも…
さっきより硬いし…なんでそんな元気なのよ…
あっ…はぁ…力…はいらないのに……
ぼ…僕…気持ちいい……のが止まらない…よ

もう…そんな激しく動いたら…
ゼロツーのがあたって…やだ…でちゃう…またきちゃう…
はぁやだっ…もう…僕…限界…
ダーリン…僕…何も考えられない…よ
目の焦点が合わずトロけた表情をする二人に
僕は指も使いやりたい放題に愛撫したのちラストスパートを
かけ一気に射精した――
『だめぇぇ…はぁぁっ……あっあっ…ひゃぁぁんっ』

はぁ…んっもう……ヒロ…
私…こんな快楽があるなんて…知らなかったよ……
ダーリン…ぼく…身体は限界なのに…
もっと…もっとしてほしい……
ゼロツー……私だって…まだ…いけるからね…

その後も僕らはあらゆる体位で抱き合い場所を変え
シャワー室でも洗いながら身体を求めあい
三人で一日中セックスを楽しむ事になった――
ヒロ…私身体は限界なのに
まだしたいよ…ヒロ好きにしていいからお願い…
イチゴばっかりずるい
僕もまだいけるからね
イチゴには負けないんだから♥

なんともまぁ……
まさかこんな事になっとるとはの…

予想以上の結果じゃが…しかし
こやつらは一体何時までやるつもりなんじゃ――

まぁ…とりあえず録画じゃの

この後も僕は数日間好き放題にやりつくし
それに影響されて他のメンバーの性生活も乱れていった――
おわり
それにしても激しいのぉ…

あとがき

お買い上げありがとうございます
「とらや」と申します

今作はアニメ放送期間中に出す予定だったのですが
中々思う通りにはいかないもので
この時期に出品する事になってしまいました

ダリ○ラが放送されてすぐに同人を制作したいと思いました
というのもこのアニメ制作会社の作画が好きで
是非描きたかったというのとヒロインの可愛さから
製作を開始しました

今作も色々考えさせられる事が多かったのですが
購入して頂いた方の妄想のおかずになって頂ければ幸いです

次回作はまだ未定となりますが今度とも
宜しくお願い致します

pixivID : 28197354
Mail : trayadoujin@gmail.com
Twitter @doujintraya